福島12市町村将来像に関する有識者検討会（第2回）資料

みんなでつくる
元気いっぱい笑顔いっぱいのまち
かわまた

平成22年9月策定
第5次川俣町振興計画のキャッチフレーズ

平成27年2月1日　川俣町

※写真は、花塚山山頂から望む川俣町内の風景

川俣町のあらまし１ － 地勢と主な産業等 －

浜通りと県都をつなぐ中継地点

県庁から川俣町役場までは車で**約30分**、
山木屋出張所までは**約50分**

県道原町川俣線	南相馬市、飯舘村を中継。川俣町役場から南相馬市までは約50分。
国道114号	浪江町を中継。川俣町役場から浪江町役場までは約1時間20分。
国道349号	浜通りの主要国道49号を中継。川俣町役場から国道49号までは約1時間30分。

○主要産業

製造業（全産業の32.3%）・・・自動車部品（エンジン、モーター、ブレーキ、ワイヤーハーネス等）に特色。
町内従業者全体の41.8%が製造業に従事。主な立地企業は、川俣精機（株）、（株）日ピス福島、（株）笠原鋳物、NOKメタル（株）、アサヒ通信（株）など

○農業

782haの経営耕地（山木屋地区だけで342ha　※経営耕地全体の約44%）・・・トルコギキョウ、葉タバコ、桑（養蚕）などに特色。復興事業により、野菜接ぎ木生産の大手、（株）ベルグアース（本社：愛媛県宇和島市の進出が決定している。

○福島県立川俣高等学校

普通科137名、機械科63名。 町内金属加工事業所が組織するマテリアル交流会との連携により、製造業等を担う技術者の人材育成を図っている、特色ある学校。

川俣町のあらまし２ ― 歴史と特色 ―

養蚕と機織の歴史

古くは養蚕と機織の地、近代においては国益を担うシルクの産地として発展

機織業は製造業の礎となった

絹織物

崇峻天皇の妃・小手姫の伝説の地。奈良興福寺の荘園、天領の歴史。明治、大正には軽目羽二重を海外に輸出。現在も、数社が良質なシルクを生産している。

内閣総理大臣賞受賞の川俣シルク
「フェアリーフェザー」※世界一薄い絹

川俣シャモ

絹長者の娯楽「闘鶏」として町にもたらされ、のちに町の特産品として開発し、昭和60年から販売。「世界一長い焼き鳥対決」でも話題に。川俣シャモ祭りを毎年8月末土日に開催。

川俣シャモ

中南米音楽祭で交流に実績

全国中南米音楽祭の開催地

コスキン・エン・ハポン

アルゼンチンのコスキン市で開催される「フォルクローレフェスティバル」を模した音楽祭で、昭和50年から開催。全国から180組を超す愛好家が訪れ、10月の連休3日間を通して演奏を楽しむ。
音楽祭の縁で、本国のコスキン市とも交流の実績があり、また、町の子どもたちが演奏に各地を訪れ、交流を行っている。

コスキン・エン・ハポンで演奏する町の小学生

東日本大震災が発生してから

― 浜通りと中通りの中継基地の役割を担う ―

避難者を受入れ、町民も避難者に

原発事故発生直後の3月12日から、双葉町、浪江町、南相馬市、大熊町の住民、合計48,967人を町内施設を避難所として受け入れました。

その後、山木屋地区が避難区域に指定され、現在も1,197人が町内外に避難しています。（H27.1月時点）

町内の公民館や学校など11か所に、平成23年3月12日から同年8月6日まで受入れました。支援には、町消防団や、女性団体が参加しました。

左は平成23年4月16日の山木屋地区住民に対する避難区域設定の説明会の様子。右は町内の仮設住宅への入居直後の様子。（平成23年6月26日撮影）

町民と災害とのたたかい

放射線への不安、風評被害による販売不振、家族が離散しての避難生活など、発生から3年10か月を過ぎて、今なお町民は災害とたたかっています。

左。山木屋中学校全校生が合唱。
※現在も川俣中学校の一部を校舎として使用。

平成24年3月4日の「原発事故被災町民大会」の様子。

川俣町復興計画の概要　1

東日本大震災を乗り越えるための道標として、平成24年3月に策定。平成25年7月に第2次に更新。平成26年7月に第2次の一部改定を行った。計画期間を平成23年度から平成32年度の10年間とし、平成27年度までの5年間を「集中復興期間」として復興施策を重点的に実施。

基　本　理　念

1　安全が確保され、住民が安心して暮らせるまち
2　雇用が確保され、住民が生き甲斐を感じるまち
3　結いと絆が維持され、住民が幸せを感じるまち

施　策　の　基　本　方　向

1　マイナスからプラスへの復興を目指す
2　災害に強いまち(防災・減災の推進)を目指す
3　健康の増進と医療の充実を目指す
4　再生可能エネルギーの活用を目指す
5　魅力ある産業の再生・復興を目指す
6　将来を担うたくましい子どもたちの育成を目指す
7　さらなる協働のまちづくりを目指す

主　な　事　業

宅地除染、基盤整備と一体で進める農地除染、企業誘致、生活環境等整備事業、復興拠点整備事業　等

川俣町復興計画の概要　2

住民の安心のための除染

山木屋地区の除染は国による直轄、山木屋地区以外は町が実施主体となって実施。山木屋地区の宅地除染は100%完了。山木屋地区以外の宅地除染は約90%完了。除染による放射性廃棄物の仮置場は、山木屋地区以外でも21か所あり、町内のいたるところに置かれている。農地除染は、ゼオライト散布により実施。

山木屋地区

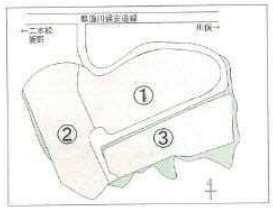
宅地除染

農地除染

川俣町復興計画の概要　3

雇用の確保

復興交付金事業により、西部工業団地を平成28年3月31日までに造成予定。さらなる企業誘致に取り組む。



川俣西部工業団地の概要

ロット名	総面積
1	25,468㎡
2	25,510㎡
3	27,617㎡

- 場　所　福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字雁ケ作地内
- 面　積　総面積184,600平方メートル（工業用地78,000平方メートル）
- 主な用途　工業製品製造業
- 用　水　500立方メートル／日（上水道）
- 電　力　川俣変電所3.6キロメートル
- 排　水　A水域　各企業が最終処理し、一級河川女神川へ
- 交通条件　東北自動車道：福島西I.Cから19.6km、二本松I.Cから20.7km、松川スマートI.C（ETC車限定）から14.4km
  東北中央自動車道：霊山IC（仮称）から約15km（平成29年度供用開始予定）
- N　値　20
- 地域指定　ふくしま産業復興投資促進特区（復興産業集積区域）
  工適・過疎

羽田産業団地

野菜苗生産会社「ベルグアース」の子会社「ベルグ福島」の立地が決定。

町と、ベルグアース社長による企業立地協定調印式の様子。

40年ぶりとなる企業誘致の成功は、町の広報誌などで紹介された。

川俣町復興計画の概要　4

山木屋地区復興拠点の整備

2メガワットのメガソーラー（建設中）を、町などが出資する「かわまた復興発電合同会社」で運営。売電収益は、全額復興拠点の管理運営費の一部に充てる。

国道114号沿いの山木屋地区中心部に、住民帰還後の復興拠点となる「復興拠点施設」の整備を計画。
商業施設と診療所の整備から始め、町営住宅、デイサービス施設など、段階的に整備していく。
浜通りと中通りを中継する重要な施設。

川俣町の復興

ー　元気いっぱい笑顔いっぱいのまちを目指して　ー

東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所事故の影響により、人口減少に拍車がかかっている。

主な放射能対策事業

- 幼保、小中学校における外部被ばく対策（ガラスバッチによる測定）
- 幼保、小学生を対象としたﾊｯﾋﾟｰｽｸｰﾙ事業の実施（日帰り）
- 幼保、小中学校へのエアコン設置　等

主な子育て支援事業

- 保育料等の助成事業
- 出産祝い金給付の継続
- 小・中学校入学祝い金　等

川俣町こどもの屋内運動場